

東京都作業療法士会ニュース

編集：東京都作業療法士会広報部

発行：会長 田中勇次郎

新年を迎えて

オミクロン株の蔓延が危惧される昨今ですが、皆様にはお変わりなく新年を迎えられたことと推察いたします。日頃より都士会活動へのご支援・ご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、この紙面を借りて三点お伝えしようと思います。

一点目は、東京都リハビリテーション専門職協会（以下、リハ専門職協会）についてのことです。昨年12月8日三士会会長会議を開催しました。リハ専門職協会の一般社団法人登記が終了し、次年度から活動を開始します。事務局は、都PT協会の中に設置し、差し当たり今まで三士会で実施していた、訪問リハビリテーション実務者研修会、地域リハビリテーション専門人材育成研修会、効果の見える生活期共通評価表研修会と災害対策に関する事業を実施することを確認しました。

市区町村の介護予防事業に関する問い合わせ窓口の役割は、時間を要するでしょうが、三士会の意思疎通や情報共有が進むと思います。都士会にとってメリットのある組織になるよう活動していきます。二点目は、協会員＝士会員の実現です。当初協会から示された2022年度開始の時期は、大幅に後退する見通しになりました。理由は、「協会員＝士会員」となっていない会員に対して、協会と士会が共に会員参加の働きかけを行うために、協会と士会の会員

データの突合作業を協会・士会の準備状況に合わせて実施する必要があります。この前提として、協会と士会が相互に相手方の会員データを取り扱うことができ

るように「会員の個人情報の取り扱いに関する覚書」を改訂し、協会と各士会間で取り交わさなければならず、その準備期間が必要になり、2022年度前半に全士会の合意が得られることを前提にしても、最短2025年度開始になることが、12月11日の47都道府県委員会で示されました。協会調査の都士会員数は3,857（JAOT 2021.9より）名、都士会員数は2,659（2021.11.18）名、協会員であるが都士会員でない方が1,198名いる都士会にとって、この延期が財務状況を健全に保つ上で痛手になることが予想されます。会員サービスの向上に努めながら事業の効率化や会員確保の施策実施に努力する所存です。

三点目は、都士会設立40周年についてです。1982年都士会が設立して、今年が40年の節目を迎えます。コロナ禍の折、式典実施は不透明な状況にありますが、記念誌等の発行は考えています。皆様からご意見をお寄せいただければ幸いです。

最後になりますが、本年も都士会活動へのご支援・ご協力のほど、よろしくお願い致します。



東京都作業療法士会
会長 田中勇次郎

CONTENTS

- ◆新年を迎えて…①
- ◆第48回国際福祉機器展H.C.R2021「福祉機器相談コーナー」報告…②
- ◆東京都作業療法士会福祉用具部から「対面型研修」のご案内…③
- ◆OTがかかわる災害対策 VOL. 3 災害時を想定したシミュレーション訓練の実施報告…④
- ◆子ども委員会活動報告…⑤
- ◆『千葉県作業療法士会 地域共生社会推進委員会 研修報告』…⑤

- ◆保険部 Letter…⑥
- ◆認知症にやさしい本の紹介 VOL.30…⑥
- ◆「認知症のひとと家族の生活支援委員会活動報告」…⑦
- ◆自動車運転と移動支援対策委員会からの報告…⑧
- ◆2月の就労支援委員会主催研修会のご案内…⑧
- ◆事業部活動報告 2021年を振り返って…⑨
- ◆ブロック活動のお知らせ…⑩
- ◆第18回東京都作業療法学会開催案内…⑫
- ◆編集後記…⑫

第48回国際福祉機器展H.C.R2021「福祉機器相談コーナー」報告

福祉用具部 部員 斎藤 梨菜

第48回国際福祉機器展（H.C.R2021）が令和3年11月10日（水）～12日（金）青海展示棟で開催されました。来場者数は3日間合計で39,647人と例年に比べ1／3程度と少ないものの、オンラインでは味わえない活気にあふれていました。

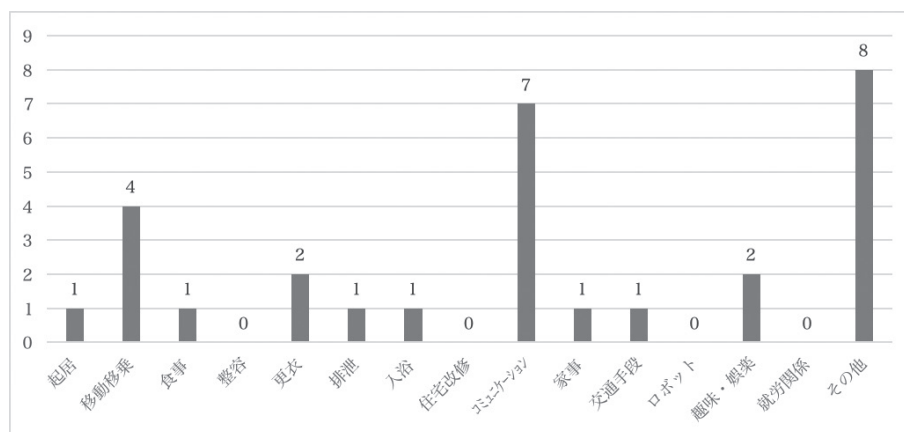
福祉機器相談コーナーは、東京都作業療法士会と神奈川県作業療法士会、千葉県作業療法士会の福祉用具部（委員会）のメンバーおよび各部の部員や役員が1日4名体制で述べ12名で対応しました。相談件数は3日間で計35件でした。相談件数は例年の1／3程度となり、来場者数の減少や新型コロナウイルス感染症に配慮した開催規模の縮小も影響していると考えられます。

相談内容はコミュニケーションが最も多く、コミュニケーションの中でも難病の方、聴覚障害者の方への支援など内容は多岐にわたっていました。当事者やご家族の悩みに対して、作業療法士の実践からの助言や提案は大変喜ばれており、福祉機器の相談に対応するという事は、作業療法士の役割であるということを再認識しました。

来年も主催者である保健福祉広報協会より日本作業療法士協会を通して依頼があると思いますので、興味のある方は是非お申し出ください。



相談項目別の件数



東京都作業療法士会福祉用具部から「対面型研修」のご案内

福祉用具部では、2017年度から「ADLシーン別研修 『居室・寝室編』、『排泄編』、『入浴編』」と行なってきました。今年度前半での対面型研修が困難であるとの判断から10月にオンライン研修『居室～玄関・アプローチ編』として「住宅改修編」の研修を行いました。

今回、感染対策に気をつけながら『居室～玄関・アプローチ』『対面型研修 福祉用具編』を行います。メーカーの方にも協力頂き福祉用具の実機に触れる研修内容になっています。（一部録画を行いオンデマンド配信も考えています）

※感染状況を見ながら行いますので、中止する可能性もあります

『居室～玄関・アプローチ 福祉用具編』

☆対象：作業療法士協会員かつ都道府県士会員 基礎ポイント2ポイント付与

その他（職種など問いませんが、定員を超えた場合には、会員を優先させていただきます）

☆参加費：作業療法士協会員かつ都道府県士会員：1,000円 その他：2,000円

☆定員：20名

☆開催日時：3月26日（土）10時30分～13時00分（受付開始10時15分）

☆研修会場：東京YMCA医療福祉専門学校（国立市富士見台2-35-11）

☆申込方法：下記のQRコードもしくはURLよりお申込みください。

☆申し込み期間：2022年1月26日（水）～3月19日（土）

URL：<https://bit.ly/3dFCJQ4>



【問い合わせ先】

Mail：tokyo.ot.yougu@gmail.com

（＊を@に変えて送信してください）

【連絡先】

パナソニック エイジフリー株式会社 船谷

TEL：090-5456-8401

生活行為工夫情報モデル事業からのお知らせ

東京都では、当事業の事例登録を行っていただけましたら、1事例に対して生涯教育基礎ポイントを1ポイント付与することができるようになりました（年間2ポイントまで）。ただし、士会裁量分となりますので各部・委員会等を行われている会員は対象外となります。引き続き、当事業の活用とともに事例登録のほどよろしくお願いたします。

概要や登録方法などは都士会ホームページをご覧ください。

TOP>各部/委員会/地区ブロック>各部>福祉用具部

<https://tokyo-ot.com/18680.html>



OTがかかわる災害対策 VOL.3

災害時を想定したシミュレーション訓練の実施報告

都士会災害対策担当（保険部担当理事） 松岡 耕史

2021年度災害時を想定したシミュレーション訓練の実施

2018年から全国の都道府県作業療法士会が毎年一斉に災害発生を想定してそれぞれの士会員の安否を確認する災害時シミュレーション訓練を開始しました。2021年度は9月25日から10月末において、災害時を想定したシミュレーション訓練が行われ、東京都作業療法士会では以下の方法で会員の安否を確認しました。

- ①都士会Faxの配信（東京都内の作業療法士が在籍している施設・病院へ都士会Faxを送信）
- ②ブロックと連携した連絡（各ブロックの災害対策の担当者を中心にブロック内で連絡）
- ③災害時連絡用メールの配信（災害時連絡用メールに登録している会員へ個別に連絡）

訓練結果

＜安否が確認できた会員数＞ 1263名/2637名（47.9%）

＜ブロック別実施率＞

区東部・東北部：66.1%

区中央部・南部・島しょ部：67.1%

区西北部：49.4%

区西部・西南部：45.7%

北多摩：43.2%

西多摩・南多摩：54.8%

2018年の災害時を想定したシミュレーション訓練開始時は、1028名/2628名（39.1%）でしたので、少しずつ訓練の参加人数・割合が増えています。この3年間に於いて、各ブロックに災害対策の担当者を設けてブロック内での連携を強化し、さらに災害時連絡用メールを整備して登録している都士会員へ個別に連絡できる体制を作っています。

実際に東京都で大規模災害が発生した場合

2021年の都士会ニュース9月号、11月号の災害に関する連載でご報告したように、東京都で大規模災害が発生した場合は、日本作業療法士協会やJRAT（日本災害リハビリテーション支援協会）、東京都理学療法士協会、東京都言語聴覚士会、各地域リハビリテーション支援センターなどの関連団体と連携して、必要に応じて病院、施設、避難所等へ杖や簡易手すりなどの物的支援、およびリハビリテーション専門職の派遣など人的な支援を行います。それらの支援を行うにあたり、今回実施したシミュレーション訓練と同様の方法で会員の皆様の安否に加えて被災状況の確認を行っていきます。

災害時の支援が円滑に行えるように、平時の対応や連携を強化できるよう努めてまいりますので、今後ともご支援・ご協力を賜りますようお願い致します。

子ども委員会活動報告

子ども委員会 八重樫 貴之

子ども委員会では、2月11日（金：祝）13：00～16：30 zoomを用いたオンライン研修会『こども×福祉用具 一歩手前のアイデア共有』を企画しています。

研修内容は、訪問で子どもの家庭に伺った時に、外部専門家として学校に伺った時に、生活や学修、遊びの場面で我々作業療法士が行ったちょっとした工夫や提案した福祉用具を、事例紹介しながら皆さんでディスカッションしていきたいと思います。事例については、「生活行為工夫情報モデル事業」の福祉用具支援システムには作業療法士が子ども達を支援している時に行った工夫や福祉用具が数多く投稿されています。その投稿の中から、子ども委員会の委員が投稿した事例をピックアップし、委員が具体的に説明を行います。

福祉用具だけではなく、現場でどのように工夫したのか、どのようなアイデアを出したか、皆さんと共有したいと思っています。ぜひ、ご参加ください。

子ども委員会主催『こども×福祉用具 一歩手前のアイデア共有』

実施日：2月11日（金：祝）13：00～16：30 オンラインで実施

参加費：都士会員及び他県士会員 500円 非会員 2000円

ポイント対象研修2P給付 事後配信あり

内 容：子ども委員による事例&用具紹介+ディスカッション

生活行為工夫情報モデル事業について

問い合わせ先：info-kodomo@tokyo-ot.com



『千葉県作業療法士会

地域共生社会推進委員会 研修報告』

地域包括ケア対策委員会 今井 悠人

千葉県作業療法士会主催の研修が10月31日（日）にオンラインで開催されました。「地域で活躍するOTの話聞いてみよう」というテーマで、「地域活動の実際～介護予防事業に対するOTの関わり～」について、地域包括ケア対策委員会メンバー（中谷・今井）より報告させて頂きました。

内容は、都内自治体（墨田区・豊島区・千代田区）の地域事業の実践例として、訪問型と通所型のサービスC事業（短期集中予防サービス）や地域リハビリテーション活動支援事業での、具体的な活動事例や地域活動の魅力などについてお話ししました。参加者は22名で、作業療法士の学生さんや理学療法士のご参加もあり、参加者の皆さんと「地域におけるOTの役割」や「地域リハビリテーション」について考える大変良い機会となりました。

地域包括ケアシステムにおいて OT に期待される役割は増えてきていると感じます。「地域活動に興味はあっても何をしているかわからない」「どうやって参加すればよいかわからない」という声も最近少しずつ聞くようになってきました。そのような声を聞いて、私たち地域包括ケア対策委員会でも「地域」に関する研修を定期的実施しております。次回は2月に実施予定ですので、ご興味がある方は都士会ホームページを是非ご覧いただきたいと思います。

保険部 Letter 通級の「原則の指導期間」

保険部 住田多恵子

今月のミニコラムでは、東京都の小・中学校で特別支援教室（通級）を利用する際の「原則の指導期間」について掲載致します。

東京都の小・中学校で特別支援教室（通級）を利用する際のガイドラインが令和3年3月に作成されました。「原則の指導期間」が設けられ、利用出来る期間が1年（最長2年）となります。

年度初めから入室（指導開始）する児童・生徒は年度末に向けて、指導の延長が必要かどうか検討されます。年度途中から入室した児童・生徒は原則の指導期間が入室した年度の翌年度末までとなります。

入室時期に関わらず年度末までに最低1回は指導目標の達成状況等の評価が行われ、学校として退室及び指導延長について検討されます。評価の結果、目標を達成し退室（指導終了）が可能な場合は原則の指導期間にとらわれず退室し、在籍学級での支援に移行していきます。

例外として、指導期間内に目標を達成できない場合、指導を最長1年間延長することができます。延長の条件は以下のようになります。

ア) 当年度の指導目標が未達成であり、同様の指導目標で指導を継続する必要がある。

イ) 指導期間延長後の具体的な指導方針や指導計画等が明確である。

ウ) 延長後1年以内で指導目標が達成できる見込みである。

年度途中の入室の場合、年度初めの入室よりも長めに指導期間が設定されているため「指導の延長」という考えは適用されません。

最大2年間特別支援教室において指導を行なうこととなりますが、目標が達成できない場合、引き続き特別支援教室での指導を継続するか、別の支援方法が良いか、適切な支援方法について、教育委員会が設置する判定委員会や就学支援委員会等で、改めて審議し判断されます。

詳しくは東京都教育委員会HP内「特別支援教室の運営ガイドライン」をご覧ください。

認知症にやさしい本の紹介 VOL.30

川崎市立教育委員会 川崎市立宮前図書館 課長補佐 舟田 彰

いつかあなたをわすれても

桜木柴乃/著 オザワミカ/絵 集英社/出版社

絵本であり、一応子ども向け対象であろう。しかし、内容は大人向きかと思わせるような作品。主人公は小学校高学年から中学生の女の子。ママとパパとそして認知症のおばあちゃん「さとちゃん」の家族関係の中で女の子が感じることをママやパパにぶつけてみて自分の気持ちを整理している。おばあちゃんのことにも触れながら。

一方、ママの母親、さとちゃんがママ自身のことを忘れてしまっている。親との思い出、そして認知症の現実、両者と向き合っている自分をパパがその子どもに客観的に伝えている。ママは母親から忘れられていくことに理解している一方、寂しさも正直、隠し切れない様子がうかがえる。ママは子どもの親子関係に向き合い、娘の成長のことなども織り交ぜながら愛情を伝える場面もある。一方、さとちゃんと過ごしてきた思い出を振り返るのである。最後の残り3ページ「さとちゃんがみんなのことを忘れる日はわたしたちとのおわかれをこわがらずに、かなしまずにすむ日」とあり、「いつかわすれてしまうじかんをたいせつにすごす」として、最後には「ながい、ながい、さよならの準備をする」と綴られている。認知症の有無に関わらず、自分の親との時間の過ごし方を大切にしたいと思った。ちなみに私の母親も認知機能の低下は年齢相応であるが、名前は「さとちゃん」であるだけに、この作品に親近感を覚えた。

「認知症の人と家族の生活支援委員会 活動報告」

認知症の人と家族の生活支援委員会 上村 淳

皆様、明けましておめでとうございます。昨年は、あっという間に「コロナウイルス」という言葉を聞き慣れながら一年が過ぎ、「今までの生活」に戻りつつ、「新たな生活」に慣れていく、一年でした。本年も変わらず「今まで」と「新たな」が融合した様々な企画を企画してまいりますので、変わらず「認知症の人と家族の生活支援委員会」をよろしくお願いいたします。

昨年のことになりますが、当委員会では様々な取り組み事業の一つである、本土会ニュース記事でおなじみの「川崎市教育委員会 川崎市立宮前図書館 課長補佐」である舟田彰先生にご協力いただきながら、「認知症関連書籍紹介」に取り組んでいます。

本事業の参考事業として、令和3年11月6日（土）13：00～14：30に昭島市社会福祉協議会主催／昭島市役所後援にて、「昭島市認知症月間～認知症を市民みんなで考える11月 認知症市民ひろば～」を開催された内容をご紹介します。昨年も昭島市社会福祉協議会からの依頼を受け、当委員会の竹原敦委員と上村淳委員により開催させていただき、今年は同じく上村淳委員での対応となりました。

当日は天気も良く東京都昭島市内団地の公園での開催であったため、団地住民や公園に来園されたり、通行人も含め、高齢者を中心とした60～80代30名、当事者数名、小学生10名、行政関係者10名ほどの参加になり、大盛況でありました。内容は「ディスタンス」「手指消毒」「マスク着用」のうえ屋外にて、第1部：「（講演）認知症っていけないの？正しく理解し住みやすい地域づくり」、第2部「作業療法士がおすすめする認知症関連の本」と題し12冊の展示、委員による数冊の本の概要説明とイチ押し紹介、第3部は「生活の楽しみは体と心から……みんなで楽しく体を動かそう」が開催され、終了後も質疑応答や書籍の詳細情報を求め、なかなか解散できないくらいでした。また、終了後も地域の方々との相談（文通）など「つながり」が生まれました。今回は、体操だけの「集いの場」ではなく、「認知症」や「作業療法士」を理解し、「認知症」や「生活」を主題とした世代を超えた「集いの場」になったのではないのでしょうか？

今後も、「認知症の人と家族の生活支援委員会」として、地域住民に向けても「認知症」や「作業療法士」への理解への啓蒙活動を行ってゆきたいと思います。皆様のご支援、応援のほどよろしくお願いいたします。



自動車運転と移動支援対策委員会からの報告

～日本安全運転・医療研究会のシンポジウム参加と日本作業療法士協会による運転支援に関する実態調査～
自動車運転と移動支援対策委員会委員長 大場秀樹（東京都リハビリテーション病院）

12月5日（日）に第5回日本安全運転・医療研究会がweb開催され、シンポジウムに参加いたしました。今回の第6回から学会化されるにあたり、「研究会の学会化に期待すること」について東京都作業療法士会からの提言を講演いたしました。作業療法士が運転支援に関わる歴史や当委員会の取り組みを通して、その役割や期待をお伝えしました。

昨年の8月、日本作業療法士協会の運転と作業療法委員会では、今後の自動車運転と移動支援に関わる協会活動ならびに会員の皆様に役立つ情報提供を行うために、全国で運転支援に関する実態調査を実施いたしました。調査結果より、都内で運転支援に関わる作業療法士数は約130名で、その施設数は23施設でした。施設の内訳は医療機関21施設、老人保健施設1施設、訪問看護ステーションが1施設でした。医療機関において運転支援を行っている時期は、のべ数で急性期が10施設、回復期が13施設、生活期が6施設でした。ドライビングシミュレータを使用している施設は12施設あり、自動車教習所と連携して実車評価・指導を行っている施設は10施設、教習所での実車評価に作業療法士が同行している施設は5施設ありました。自動車運転を断念する症例を経験した際に提案したことがある代替手段については、電車やバス（路線バス、地域循環バス）は全施設であり、その他にデマンドタクシー、福祉有償運送、地域住民によるボランティア運送、知人や家族の送迎、シニアカー、電動車椅子、ガイドヘルパーなど、社会資源等を活用して試行錯誤している実態が見えました。

2022年1月22日（土）に全国調査を踏まえて「運転と作業療法委員会都道府県協力者会議」を行います。この会議は全国の運転支援の現状についての情報交換を目的としています。当日は、当委員会でのこれまでの取り組みや特徴ある施設の紹介などを報告する予定です。

今後とも当委員会での活動にご協力の程よろしくお願いいたします。

2月の就労支援委員会主催研修会のご案内

皆さん、明けましておめでとうございます。去年は、オンライン就労支援相談会や学会等にご参加いただき、ありがとうございました。本年もよろしくお願いいたします。

新年早速となりますが、今年もみなさんと一緒に就労支援に関する学びを深めていきたいと考え、研修会を企画しました。概要は以下です。

テーマ：精神障害者・発達障害者のための就労支援～当事者と共に考える～

日時：2022年2月20日（日）13：00～15：00

方法：オンライン

内容：

- ・精神・発達分野の就労支援について、それぞれの分野の就労支援に関する支援内容や流れ、方法等を知ること。
- ・当事者からの実際の支援や働き方に関する意見を共有し、学びを深める。

講師：

- ・作業療法士 金川 善衛氏（医療法人清風会 就労移行支援事業所・就労支援センターonwarkサービス管理責任者）
- ・作業療法士 扇 浩幸氏（ワークステーション Jade 中野 所長・サービス管理責任者）

申し込み：下記URL・QRコードまたは都士会ホームページをご確認ください。

https://eventpay.jp/event_info/?shop_code=5238587945919649&EventCode=P148702637

お問い合わせ：shuuroushien@tokyo-ot.com

これまで就労支援委員会では、高次脳機能障害や身体障害の分野を中心に研修会を開催してきました。今回は、初めての精神・発達分野に関する研修会になります。多様化する就労支援のニーズに対応する学びの機会にできればと思います。

※オンライン就労支援相談会 2022年2月10日（木）19：00-20：30

今年度最後の開催です。ご参加お待ちしております。



事業部活動報告 2021年を振り返って

大館 哲詩

気がつけば早いもので新しい年となりました。現在は新型コロナウイルスの感染状況も一時の流行を考えると落ち着いているように感じられます（原稿執筆時）しかしながら、2021年は前年に引き続き事業部の活動は感染状況下での試行錯誤の1年間でした。

集合参加のイベントは開催が見合わされるものが多く、オンラインや動画の作成、提供がメインでした。そんな中で、いかにして作業療法を伝えていくか、今までとは違ったSNSの活用などアプローチも含めてチャレンジできたのは部員一同よい経験でした。

活動の結果も踏まえて再考の余地も当然ありますが、今後かつてのような集合参加のイベントが再開してもコロナ禍の啓発活動の中で得た経験を財産としてよりブラッシュアップした企画を展開していけると感じております。

話は変わりますが、最近朝の情報番組で作業療法士が出演するのをたまたま目にしました。それぞれの作業療法士の働きが世間の認知度向上にも貢献するのだと改めて感じるきっかけとなりました。やはりテレビでの放送は多くの反響があるようですね。事業部としての活動も負けじと（決して競っているわけではありませんが）チャレンジしていきたいと思います。

さて、今年はいかほど集合参加のイベントができるでしょうか。感染状況については自身の感染対策を徹底しつつ、あとは祈るのみ。

追伸 以前ニュースに同封したOTの日シール、使っていただけましたか？手元に残っている方、ぜひ積極的に使ってみてくださいね！

ブロック活動のお知らせ

区東部・東北部ブロック

白石 恭子

当ブロックでは、11月17日（水）に【ダイアログ研修会】をオンラインで実施しました。ダイアログとは、対話を指します。議論でも雑談でもなく、互いの立場を理解しながら互いの意見をきちんと伝え合い、相互理解を深めていくものです。本研修会では、“対等に”をキーワードに講師の方を先生と呼ばない、お菓子やお茶の飲食可、参加者も顔を映してリアクションする等、今までのブロック研修会とは一味違った非常に和やかな雰囲気で開催されました。また、グループでの模擬ダイアログ体験を行い、臨床のみならず生活上にも直ぐに活かす事の出来る内容となりました。参加者からは、OTとして基礎になるともいえる対話の技術を学び、日々の振り返りや新たな気づきを得る事ができたとの感想が聞かれました。

今後もブロックならではの企画や取り組みを発信していきたいと思えます。

◇今後の取り組み◇

2月20日（日）に【認知症アップデート研修会】を開催致します。講演や症例検討など充実した内容となっておりますので、是非ご参加下さい。

区中央部・南部・島しょブロック

池田 晋平

区中央・区南部ブロックでは10月下旬に「オンライン職場見学会&交流会（zoom）」を開催しました。この研修は、それぞれ勤務している職場を紹介し、情報交換や交流を図ることが目的です。また新たな試みとして、都内養成校の「学生さん（OTS）」にも広報させていただき、当日参加した22名のうち4名がOTSの方でした！

前半は品川リハビリテーション病院、在宅総合ケアセンター元浅草、山王リハビリ・クリニック、聖路加国際病院の4施設より、工夫を凝らした職場紹介をしていただき、オンラインながらにまるで見学しているような実りある報告を聞くことができました。後半はグループに分かれ、OTSの方も楽しめるような「優しく何でも答えてくれます！OTRに聞いてみたいこと」、「OTRあるある・OTSあるある」などのテーマでざっくばらんに交流を図りました。立場に関係なく、お互いが学び合うような有意義な研修だったと思います。当ブロックでは今後もこのような研修を企画していきたいと考えています。

区西部・西南部ブロック

齊藤 洸太

皆様、新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

西部西南部では一昨年度から中野区支部が立ち上がり、今年度は勉強会を初開催することになりました。また、各区支部を編成できるよう、区ごとの交流会も充実していく予定です。これらの活動は、身近な作業療法士の困りごとや協働できる仕組みを整備できればと思い活動しています。皆様の地域で都士会のブロック委員が声をかけてきましたら、その時は煙たがらず深い優しさで接して頂けると幸いです。同じ悩みや研鑽している人との出会いは仕事もプライベートも充実します。今年も皆様の作業療法が充実し、クライアントの生活行為が獲得・充実されることをお祈りしております。またその為の活動を行っていきます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

区西北部ブロック**松澤 良平**

今年度、区西北部ブロックではMTDLP研修とオンライン交流会の2本柱で運営しています。今回はオンライン交流会についてのご紹介です。昨年度の交流会では各施設でCOVID-19に対する感染対策について、オンラインで情報交換をしていました。今年度は一歩踏み込んで、各施設についてオンラインで見学会ができるように準備をして、映像で各施設の設備環境や感染対策の状況が分かるように開催しています。第1回目は回復期病棟を代表してイムス板橋リハビリテーション病院を、第2回目は精神科を代表して陽和病院を紹介しました。また、参加者同士の交流会では、卒前卒後教育をテーマに意見交換をしています。コロナ禍での苦勞と工夫を共有し、参加者からは新たなアイデアを得ることができたとご意見をいただき、好評を博しています。他ブロックからも参加可能ですので、ぜひオンライン交流会にお越しください。

また、令和4年3月13日にMTDLP実践者研修会を開催します。準備が整いましたら都士会HPで広報していくので適時確認をお願いします。

北多摩ブロック**原田 祐輔**

今年度も残りわずかとなりました。北多摩ブロックでは、ブロック内（外）における交流の活性化を目的に座談会や勉強会を複数回企画してきました。一年を通してオンライン開催主体でしたが、オンラインの良い点や不十分な点を振り返りつつ、より皆さまが参加しやすい形になるよう次年度計画を検討しはじめています。座談会や勉強会で希望するテーマがありましたら、下記Formに自由に書き込んでください。

引き続きよろしくお願い申し上げます。

【座談会・勉強会にて希望するテーマ】

<https://forms.office.com/r/X5YXngFf9e>

【今後の予定】内容確定次第、都士会のホームページに掲載します。

・勉強会：2～3月（Zoom開催）テーマ：コロナ禍での実習・教育（仮）

※実施月変更、日にち未定

・座談会「ツドイノバ」：2月（Zoom開催）※日にち未定

**西多摩・南多摩ブロック****今泉 幸子**

12月4日（土）にMTDLP基礎研修会が開催されました。私たちのブロックでは初MTDLPオンライン研修会でしたが29名の方にご参加いただき無事終了することができました。参加された方々には是非MTDLPを臨床で実践していただき、また、事例発表・登録に進んでいかれることを願っております。そして、来年7月の都学会の企画に取り掛かっております。これから学会運営メンバーの拡充を進めていきます。学会の準備に関わりたいという方がいらっしゃいましたら、ぜひお力をお貸しください。特に西多摩方面の方々を大募集しております！当ブロックでは、コロナ禍でも毎月のオンライン会議を開催しながら活動しております。

ご意見・ご要望・ご質問はこちらまで ⇒ swtamaot@gmail.com

第18回東京都作業療法学会開催案内

来年度の都学会の概要が決まりました。参加申し込み、演題募集等の詳細は決定次第、随時ホームページ (<https://tokyo-ot.com/lecture>) でお知らせいたします。今回のテーマにはChange (内外の変化) をChance (好機) と捉えChallenge (作業療法士ひとりひとりが挑む) という意味が込められています。奮ってご参加いただき皆で学会を盛り上げていきましょう！

研 修 名：第18回東京都作業療法学会

形 式：オンライン

開 催 日：2022年7月10日（日）

テ ー マ：「Change・Chance・Challenge 3つのC ～作業療法のいま・これから～」

大 会 長：三沢幸史（東京都作業療法士会副会長・多摩丘陵病院）

実行委員長：栗沢広之（東京都作業療法士会理事・大久野病院）

担当ブロック：西多摩・南多摩ブロック

演題募集期間：2022年1月14日～2022年3月14日

編集後記

新年あけましておめでとうございます。本年も都士会広報部・都士会ニュースをどうぞよろしくお願ひ申し上げます。さて、今回はOTOという特別号を同封させて頂いております。こちらは広報部が作成した、都士会や作業療法の広報誌となっています。会員の皆様だけでなく、作業療法士ではない一般の方にもぜひ目を通していただきたいです。OTO4号ではセカンドキャリアとして他の仕事から作業療法士に転職された3名の方のインタビューを掲載しております。OTを知らない方、OTを目指そうかと思っている方、OTとしてのキャリアに悩まれている方など、あらゆる方にとって、「やっぱりOTっていう仕事って魅力的だな～」と再認識して頂ける内容になっていると思います。今回の企画は発案の段階からすべてオンライン会議で行いました。オンラインだとなかなか意見が出なかったり、ふとした時に創発されるアイデアが出にくいのでは、と思っていましたが、そんなことはありませんでした。ニューノーマルな世の中に適合し、画面越しでも意見を言い合い、とても納得のいく成果物ができたことを誇りに思います。ご協力いただいた3名の方、総括を書きくださった群馬パース大学の石井良和先生、平素から広報部の活動にご協力頂いている皆様、どうもありがとうございます。

広報部部長 水口寛子

※ニュースに掲載されている写真は、ご本人の同意を得たうえで掲載しています。

◆東京都作業療法士会 事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-4-1 新宿Qフラットビル501号室

TEL：03-6380-4681 FAX：03-6380-4684

◆東京都作業療法士会ホームページ <http://tokyo-ot.com/>

◆東京都作業療法士会ホームページ窓口 postmaster@tokyo-ot.com

※お詫びとお願い：現在事務局での電話対応が困難な状況にあります。

ご質問・ご連絡は、FAX・メールにてお願いいたします。